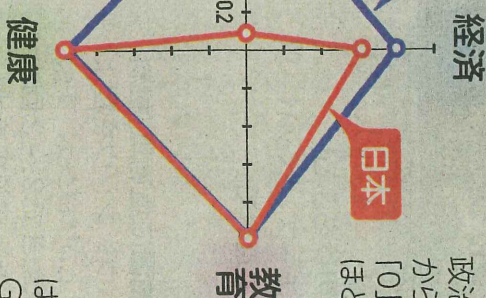


ジェンダー・ギャップ指数

スイスの非営利団体「世界経済フォーラム」が
2006年から公表する男女平等度合いを示す数値



政治、経済、教育、健康の4分野14項目のデータから算出する。男性に対する女性の割合を示し、「0」が完全不平等、「1」が完全平等。「1」に近いほど順位が高い

※14項目は政治「国会議員の男女比」「閣僚の男女比」、経済「労働参加率の男女比」「同一労働における賃金の男女格差」、教育「識字率の男女比」「高等教育就学率の男女比」、健康「健康寿命の男女比」など

※世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書(2025)」より作成

ジェンダー・ギャップ指数の主な順位(2025年)

1	アイスランド	0.926
2	フィンランド	0.879
3	ノルウェー	0.863
4	英国	0.838
5	ニュージーランド	0.827
9	ドイツ	0.803
42	米国	0.756
101	韓国	0.687
103	中国	0.686
118	日本	0.666

アイスランドは政治が「0.9越え」と突出。日本は政治が低迷し、全体では148カ国中118位とG7最下位。アイスランドは06～08年は4位、その後16年連続1位。24年に就任したハト・トーマス・ボットツェイル大統領はアイスランド史上2人目の女性大統領。同年就任のクリストル・フロスタ・ボットツェイル首相も女性で、大統領と首相を同時に女性が務めるのは同国でも初めて。



ハト・トーマス・ボットツェイル大統領 クリストル・フロスタ・ボットツェイル首相
(いずれもアイスランド政府提供)

変革の道

この変革につながる大きな転機が1975年の「女性の休日」。アイスランドが男女平等や人権問題に力を入れるきっかけになった象徴的な出来事です。立場や考えの違う女性が一一致団結した点が重要でした。その5年後、世界で初めて民主的に選ばれた女性国家元首・ヴィグデイス・フィンボガツェイル大統領が生まれます。性別を超え、彼女が私たちのロールモデルになりました。この後、育児休業やクォータ制など男女平等を推進する動きが展開していきます。

日本にも初の女性首相が誕生しました。大きなステップです。若い世代にとってロールモデルは重要です。アイスランドがそうだったように。男女格差の解消において、アイスランドはまだまだ完璧とはいえません。ジェンダーに基づく暴力や女性の搾取の問題など、さらなる改善が必要です。私たちも道半ばですが、アイスランドが今までしてきた変革の道筋を、日本のみなさんに共有してもらったことが、社会を変える参考になればと願っています。

東京都多摩市との友好関係

今年の「アイスランドウィーク」 6月13～21日(予定)

2019年、東京都多摩市が東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のアイスランド選手団の事前キャンプ地に決定し、交流が始まる。東京オリパラ後も関係を深めようと、同国の建国記念日が6月17日であることから、毎年6月に「アイスランドウィーク」を実施。これまで、アイスランド料理教室やアイスランド人講師を招いた講演会などを開催。昨年、レイキヤビク市長が多摩市を訪れ、姉妹都市提携に向けて準備が進められている。



アイスランドウィークには市内小中学校でアイスランド料理にちなんだ給食を提供。駐日アイスランド大使(24年当時)も試食し多摩市提供